

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ほっぷ・すてっぷ魚津		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 12月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21 (回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 12月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【運動学習特化型】 大人（社会人）になった際に求められる能力（社会性・協調性・コミュニケーション能力・問題解決能力など）を活動を通して楽しみながら身に付けていくことができる	【運動特化型】 協力ゲームを中心に、楽しみながら協調性や問題解決能力を養っている。 【学習特化型】 宿題のサポートだけではなく、個々の能力に応じたオリジナル課題を作成、提供することで、得意なことや苦手なことの要因を分析しながらスキル向上に取り組んでいる。	支援ミーティングや支援のふりかえりを徹底することで、全職員が質の高い支援を提供できるように支援力の向上に努めている。
2	【他機関との連携】	学校や学童など、事業所以外の所属先を訪問し、情報共有や連携強化を図りながら、事業所内だけではなく、利用者を取り巻く環境の向上にも努めている。	学校や学童など他機関への訪問機会をいただいているが、館内での様子を見ていただく機会が少ないので、相互に訪問ができるような機会を作り出していく。
3	【地域移行される方が多い】 学童やスポーツ少年団など地域活動に移行されていく方々が多いらしい	日頃より、コミュニケーション能力や考える力など自立を促す支援を実施していく中で成功体験を重ね、自尊心や向上心などを高める支援を実施している。	地域に移行される際、ケース会議などに出席し、スムーズに移行できるようにより一層のサポートの強化を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	館外活動の機会が少ない	事業所付近で安全に屋外活動できるような場所がないため、イベント日などを除いては、館内での活動が中心となってしまう。	長期休暇中など、支援時間が長く確保できるような機会には、安全に活動できる館外活動計画を策定していく。
2	ホームページなどSNSを利用した情報発信	個人情報の流失を防ぐためにイベントの案内や利用時の様子など、お手紙や口頭でお伝えさせていただいている状況である。	事業所の活動を広く認知していただくためにも、SNSなどを通じた情報発信の必要性を感じる。そのためにも、各利用者に対して、情報発信に関する意思確認を実施し、同意を得た上で進めていく。
3			